

# 思いやり通信



仙台市立黒松小学校

令和3年8月25日

第7号

## 夏休みが終わりました。

残暑が厳しい日が続いておりますが、保護者の皆様も地域の皆様も、お元気でお過ごしのことと思います。夏期休業中に実施いたしました個人面談では、猛暑日や台風に見舞われた日もございましたが、わざわざ学校まで足を運んでいただきましてありがとうございました。担任から受けた報告の中には、「行事の成果を誉めていただいたり、日頃の教育活動をねぎらっていただいたりした」というものもありました。そういった声こそが私たちの活力になります。紙面を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、今日から学校での生活が再び始まりました。久しぶりに登校した児童を昇降口で出迎えたところ、どの児童も元気な朝の挨拶を返してくれて、表情にも暑さに負けない笑顔が見られました。有意義な夏休みを過ごしてきたことがうかがえ、うれしく思っています。しかしながら、もしかしたら早寝早起き朝ご飯などの生活習慣が乱れたり、楽しい遊びやゲーム、SNSや動画視聴に費やす時間に心引かれて学習への意欲が衰退してしまったりしている児童もいるかもしれません。今後もご家庭や地域の皆様と連携して、児童の基本的な生活習慣を確立し、社会性を身に付けていけるよう促して参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 4年生のお手紙

4年生が図工室前の花壇で、ヘチマを育てています。初めての体験なので、ゲストティーチャーとして「シンプル&スローライフの会」の皆様にも黒松小学校に来ていただき、ヘチマの育て方を教えてもらいました。ご指導のおかげでヘチマは順調に成長しています。ここで子供たちが書いたゲストティーチャー宛のお礼のお手紙をご紹介します。どれも感謝の心が伝わるすばらしい内容です。ヘチマと共に子供たちの成長も感じられます。それにしても、手書きのお手紙って心が伝わる良いものですね。



# コロナいじめを防ごう！

夏期休業中、河北新報のオンラインニュースで八木山中学校の生徒が制作したモザイクアートに関する記事を読みました。最近のニュースは感染拡大と大雨による自然災害の記事が多く、大人でさえも恐怖心が芽生えてしまいます。そんな中で感染者や医療従事者への差別や偏見を無くそうと行動を起こした子供たちの思いやりの心に、私は胸を打たれました。私も黒松小学校のいじめ防止対策担当として、そして子供たちに関わる大人の一人として、できることを考えていきたいと思いました。

(以下 記事全文)

## やめようコロナいじめ 「犯人捜しの風潮なくしたい」 仙台の小中学校、指導強化



仙台市の小中学校が新型コロナウイルス感染者や医療従事者への差別、偏見をなくす教育に力を入れている。道徳や学級活動などの時間を使い、誰もが感染する恐れがあることを説明し、相手の立場を思いやる大切さを教える。児童生徒や教職員が感染者になるケースもあり、いじめに発展しないよう丁寧に指導する。

太白区の八木山中は3月22日、当時の全校生徒414人が製作した縦横3メートルを超える大きな「モザイクアート」を、学区内の仙台赤十字病院に寄贈した。

120枚のコピー用紙に色を塗り、台紙に貼り付けた力作。医師と看護師が手を取るように向かい合い、地球を支えるイメージを描いた。コロナ患者の治療に最前線で携わる医療従事者への感謝を表したという。

同校は道徳の授業や学活でコロナ差別を取り上げた。感染者に関する根拠のないうわさが会員制交流サイト（SNS）で出回った時、どう対処するか生徒に話し合わせ、感染者や医療従事者への差別や偏見を考えた。

モザイクアートはこうした教育の成果。去年は文化祭が中止だったため、生徒会が「みんなで団結して、何かを形に残したい」と音頭を取った。伊藤隆教頭は「生徒の自発的な活動の積み重ねが、差別解消につながる」と手応えを示した。

市内に感染が広がり、1年余り。児童生徒が感染者や濃厚接触者になることも多く、各学校は「コロナいじめ」対策も強化する。

青葉区の小学校は道徳や保健、総合学習などの時間を使い、日本赤十字社が公開するコロナ差別の動画を視聴させ、児童に意見交換させた。授業の様子はお便りで保護者にも知らせ、家庭内でも差別について話し合うよう求めたという。

宮城野区の中学校もコロナ差別や偏見をテーマに生徒が討論した。教頭は「犯人捜しをするような風潮をなくしたい」と狙いを語った。同様に取り組む青葉区の中学校の教頭は「授業は、コロナによるいじめを許さない姿勢を示すという意味もある」と明かした。

市教委によると、コロナ感染を理由としたいじめの報告は現時点でない。大型連休明けには、いじめ防止「きずな」キャンペーンを5月末まで展開し、コロナ感染への理解を深める指導の強化を各校に求める。

千葉伸治教育相談課長は「コロナ感染は人ごとではないと、粘り強く教えることが大切。そのことを児童生徒が考える機会を引き続き設けたい」と話した。

2021年05月05日